

学習における ICT 機器や地域人材の活用について

学校生活アンケートのご協力、ありがとうございました。結果をもとに成果と課題を分析し、先日、学校評議委員の皆様から学校運営に関わるご意見を頂戴しました。考察と対応策を加え、後日皆様へお知らせする予定です。このことは、学校評価の結果としてホームページにも公開し、楯岡特別支援学校に関心を持たれている方々に見ていただけるようにします。



学校生活の充実や児童生徒の成長等について、たくさんの成果がありました。一方で、保護者と教職員の双方が課題に挙げた項目は、ICT 機器の効果的な活用でした。今後は、子供たちの学習が促進する効果的な活用を情報共有し、教師の指導の下 iPad 等を適切に活用していきたいと考えています。

また、地域の方をゲストティーチャーにお迎えする学習や地域の方々と交流する学習についても課題の一つに挙げられました。本校でも分校でも、小学部から高等部まで、様々な活動を行ってききましたが、頻繁に行っている学習ではないために、印象が薄かったと思われます。学級通信等で積極的にお知らせするとともに、子供たちにとって有意義な学習を計画できるように、地域人材の発掘や地域交流の工夫に努めたいと考えております。



大地震などの自然災害時の対応を考える

山形県では、震度4以上の地震が起きた場合に、管理職と付近に居住する職員が学校に集まり、施設設備の点検や散乱した物品の片付けなど必要な対応を行うことにしています。しかし、夜中に大地震が起きた場合、様々な問題点があります。

校長や事務部長は学校まで片道30km以上で、すぐに学校へ駆けつけられないかもしれません。また、暗い中で校舎周辺の安全を確認することは困難です。もし、停電になれば、校舎内の点検も片付けもできないばかりか、子供が登校する時の冷暖房もできません。加えて教職員の半数近くは片道20km以上の遠距離通勤をしています。子供の対応や指導に必要な人員を確保できない可能性もあります。



年末に青森県八戸市で震度6の地震がありました。青森県では、震度5強以上の地震が起きた場合に県立学校を休校とし、安全を確認してから学校を再開することにしています。他県でも、同様の対応をするところがあります。大地震をはじめ、大雨による洪水、台風や大雪など、自然災害時の対応を見直す必要があると思います。